

## 南米ボリビアで環境問題・社会問題の解決に貢献 現地法人を率いる本間賢人さんに聞く

詳しい記事がNIAホームページからご覧になれます  
発行 習志野市国際交流協会  
千葉県習志野市津田沼5-12-12サンロード津田沼6F  
Tel&Fax 047-452-2650  
<http://www.nia08.com/>  
[nia@jcom.zaq.ne.jp](mailto:nia@jcom.zaq.ne.jp)



ウユニ塩湖周辺ゴミ0運動

近年SDGsなど地球規模の問題解決への関心が世界的に高まっています。日本でもさまざまな分野で活動する人や組織が増えていますが、すでに数年前から日本を飛び出して、海外の社会問題・環境問題に取り組んでいる青年がいます。そのひとり、海外の現地で活躍中の本間賢人(よしひと)さんに話を伺いました。

——活動についていろいろ伺います。まず、どんな活動をされていますか。

私は今、中南米現地法人ProjectoYOSIの代表をしています。ProjectoYOSIは、中南米の持続的な発展・環境保全を目的として2016年に設立された団体で、持続的な観光・プロジェクト・人材育成を3つの柱として運営しています。

——具体的には。

観光では、雇用の創出、賃金の向上、環境負荷の軽減に取り組んでいます。プロジェクトでは、中南米各地に存在する社会課題や環境問題に対して、現地の教育機関や企業と連携して、改善に向けた企画立案と実施を行っています。また人材育成では、プロジェクトを継続的に行うために、日本と対象国、両国間の関係発展を目指して海外で活躍できる人材を育成しています。

——本間さんがこのような活動を始めたそもそものきっかけは何ですか。

市立習志野高校時代の3年間、テニス部で練習に明け暮れていました。そして3年夏、高校総体が終わって引退したあと、さて将来何をするかと考えました。そして漠然と野外自然系の仕事を調べていたときに出会ったのが南米でした。

最初は樹木医になりたかったような気がします。そこから森といえばアマゾン、ベネズエラは、プロジェクトを継続的に行うために、日本と対象国、両国間の関係発展を目指して海外で活躍できる人材を育成しています。それからJICAの説明会に参加して、いろいろな職員と話をすることで、中南米の環境保全事業で現地の人と一緒に働く彼らの姿がとても輝いて見え、私も将来は南米の自然の中で働こうと決意しました。

その後東京農業大学に進学して、大学2年の時に国際NGOのボランティアとして初めて南米に渡りました。熱帯雲霧林保全やジェンダー問題に取り組んでみて、あらためて中南米で働くことの夢を確認しました。

——今はどんな活動をされていますか。

現在、ProjectoYOSIの活動拠点であるボリビアで活動しています。多民族国家ボリビア共和国は南米大陸の中央に位置していて、標高3800mを超えるアンデス地域と緑が生い茂るアマゾン地域の、大きく2つに分けられます。私が活動しているのはアンデス地域にあたり、事実上の首都であるラパス(憲法上の首都はスクレ)やボリビアの一大観光地であるウユニ塩湖があります。

——そこではどんな問題に取り組んでいるのですか。

ウユニ塩湖は天空の鏡と称される、訪れた人々の心を震わせるほどの美しい景観をもっています。しかし、その陰には環境汚染が進行していて、対策が遅れていました。ProjectoYOSIはその問題に対して、教育機関・現地企業と連携してプラスチックを石油に変えるリサイクル機械を利用した環境教育活動を行っています。またウユニ市のごみの大半を占める食料廃棄物、プラスチックなどを限りなくゼロにした観光事業を進めています。さらに、ProjectoYOSIはカウンターパートとして国立サンアンドレス大学(UMSA)と協定を締結していますが、そのUMSAと連携して、ごみゼロ運動や国際セミナーの開催、環境意識調査を行っています。プロジェクトの評価はUMSAが担当していて、論文にまとめた結果、住民たちの環境汚染に対する意識が改善されたことがわかり、活動の有効性が確認されました。

——その一方でご苦労されていることもありますか。

思い返せばたくさんさんのトラブルがあったような気がします。大変だったなと思うのは現地とのスケジュール調整です。ボリビアはよくデモが起こるので、

道路封鎖は当たり前です。片道10時間バスに揺られて行ったのにデモで市役所が封鎖されていて、予定していた会議が全てなくなったこともありました。収束する気配がないので、また10時間かけて家に帰りました。今となってはいい思い出で、もう何が起きても驚かなくなりました。

——人材育成にも取り組んでいるとのことですが、どのような。

日本とボリビア両国の人材育成プログラムとしてインターンシップの受け入れをしています。

UMSAと話し合いを重ねる中で、ボリビアでは文化交流・環境問題・日本語英語講師が不足していることがわかりました。この課題に対して、これまで7名の長期インターン(6か月以上)と約40名の短期プログラム(1週間以内)を日本から受け入れました。これは双方の学生にとって有意義な時間となりました。長期インターンシップでは、英語クラス・日本語プライベートクラスの新設、文化交流イベント、JICA Boliviaの委託調査など、様々な分野で実績を残すことができました。UMSAからもよい評価をいただいている、引き続きこのプログラムを行ってほしいと言われていました。また参加した日本人学生もこのプログラムをきっかけとして、より専門性を求めて大学院へ進学したり、青年海外協力隊へ参加したり、またJICAへ就職するなどそれぞれの夢に向かって進んでいます。

——これからのProjectoYOSIの目標はどんなことですか。

現在コロナウィルスが猛威を奮っている中、ProjectoYOSIでは中南米との繋がりを活性化するために、オンラインでの国際交流(インターンシップ・プログラム)や小学生向けの南米講座(SDGsや自然・文化紹介)を行っています。引き続き中南米との関わりを強化し、よりよい社会へ向けて活動の幅を広げていきたいと思っています。

——最後に本間さん自身が目指していること、またこれから社会参加をする若い人たちへのメッセージや、習志野市国際交流協会のみなさんに伝えたいことを聞かせてください。

ボリビアで行っている観光・環境保全・教育の小さな循環を、モデルケースとして他の地域へ拡大・展開することが今後の夢です。熱帯雨林保全などこれまで行ってこなかった分野にも挑戦していきたいと思っています。中南米のジャングルはカカオやナッツなど農産物のほか、多様性に富んだ動植物の宝庫なので、好奇心がつかえることではなく、どんなことができるか楽しみでなりません。中南米にはまだまだ日本では知られていない魅力がたくさんあります。みなさんに少しでも興味をもってもらえたら嬉しく思います。

また中南米や外国に心が惹かれたときは、直感の赴くままにさまざまなことにチャレンジして、飛び込んでみてください。そこには今までの価値観が変わるような、鮮やかな世界が待っていると思います。

聞き手：広報部会



ウユニ市小学校環境教育



# 船橋市国際交流協会主催・船橋市共催 災害時の外国人支援サポーター養成講座を受講して

井澤修美(事務局長)

船橋市は災害時の外国人支援に関してとても先進的な取り組みを行っています。以前から「災害時の外国人支援サポーター養成講座」を開催していましたが、今回オンライン講座が可能ということもありNIA事務局も参加。20人ほどの受講者の中には、浦安市、千葉市、柏市などの各国際交流協会からの参加者もいました。やはりどこの市でもその必要性を感じているのだと思いました。

講師は多文化共生リソースセンター東海の代表理事である土井佳彦氏。これまで熊本地震をはじめ数々の被災現場で外国人の支援活動を実践してきた方です。

7月31日(土)と8月21日(土)の2回にわたり講義とグループワークによる講座が開催されました。

第1回目のテーマは、災害時に外国人が直面する課題とボランティアに求められる役割です。災害時に日本語がよくわからない外国人は「要配慮者」となります。自然災害のほとんどない国から来日した人にとっては大地震などが起きればパニックに。まして避難所生活などということになれば、ことばの壁や習慣の違いから多くの不安を抱えることは容易に推察できます。自治体における被災外国人の対応や「災害時多言語支援センター」の役割について学ぶとともに、実際に役立つ多言語情報を提供している自治体等のサイトやアプリなども紹介いただきました。

第2回目のテーマは、災害時の外国人への情報提供と「やさしい日本語」です。被災外国人に対してそれぞれの母語で情報を提供することができればベストですが、必要なすべての言語に対応することはまず不可能です。そこで活躍するのが「やさしい日本語」。多様な国々の人にとっては「英語」よりもむしろ「やさしい日本語」の方が理解できるというデータもあります。「やさしい日本語」には100%の正解はありません。少しでも多くの人に伝わることを目指し、時には身振り手振り、絵、写真なども活用し、一番伝えたいことを簡潔に伝えます。小グループに分かれて実際に言葉や文章を「やさしい日本語」にする練習をしてみました。これは訓練をしないとなかなか難しいということを改めて認識しました。

今回の研修を受講し、平常時から行政や社会福祉協議会などの関係機関と連携を取り、災害に備えた役割分担をしっかりと決めて

おくことが必要であることを痛感しました。各機関が共通認識を持ち、互いに協力できるようなシステムの構築が求められます。そして、習志野市国際交流協会として何ができるのか、ぜひ皆さんにも考えていただきたいと思います。

## ◆防災に役立つ多言語情報の提供例

- VoiceTra 多言語音声翻訳アプリ 再翻訳機能がついている
- Safety tips 外国人旅行者にもわかりやすく災害情報を通知する無料アプリ

- 災害時多言語情報(自治体国際化協会)
- 外国人住民のための避難生活ガイドブック(静岡県)
- 災害時の多言語支援のための手引き2018(自治体国際化協会)

## ◆「やさしい日本語」にするための12の規則

- (1)難しいことばを避け、簡単な語を使う。
- (2)一文を短くして分の構造を簡単にする。文は分かち書きにすることばのまとまりを認識しやすくする。
- (3)災害時によく使われることば、知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使う。
- (4)カタカナ・外来語はなるべく使わない。
- (5)ローマ字は使わない。
- (6)擬態語や擬音語は使わない。
- (7)使用する漢字や漢字の使用量に注意する。すべての漢字にルビ(ふりがな)を振る。
- (8)時間や年月日を外国人にもわかる表記にする。
- (9)動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にする。
- (10)あいまいな表現は避ける。
- (11)二重否定の表現は避ける。
- (12)文末表現はなるべく統一する。

## ◆リーディングチュウ太(日本語読解学習支援システム)

文章を入力して、レベル判定「語彙」をクリックすると、「日本語能力試験」を目安にことばのレベルチェックができる。(語句の色が変わる)

## 英語・日本語スピーチ大会「2021COMCUP」のご案内

銚子市の諸団体が主催するビデオによるスピーチコンテストが開催されます。コミュニケーション能力としての語学力の育成と、異文化理解教育の場を目的に、2001年銚子市ではじまった小さなスピーチ大会です。今年度のテーマは「resilience レジリエンス」。

「英語・日本語弁論の部」「英語ショートスピーチ動画の部」でスピーチ動画を募集します。個人での直接応募となります。

詳細、応募、問い合わせは下記公式サイトをご覧ください。

<https://comcup.jp/>

募集期間	2021年9月20日(月)～11月20日(土) ※英語1分動画部門は12月3日(金)まで受付
審査結果発表	2021年12月19日(日) 13:00～14:15 オンラインにて審査結果を発表
募集部門	[1] 英語・日本語弁論(受賞者の弁論のみ12月末日まで公開) [2] 英語1分動画(受付後、12月末日まで限定公開)

広報  
から

- ★メールマガジンに読者登録を  
スクウェアの電子版「メール・スクウェア」を配信しています。無料です。  
配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレス niasquare@jcom.zaq.ne.jp まで。
- ★原稿をお寄せください  
イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局または niasquare@jcom.zaq.ne.jp へ。
- ★スクウェア編集部員を募集しています  
一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。